

# 自治大卒業生の声

## 自治大学校卒業生（第2部課程第207期）

山口県萩市 國光 知広

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

### 1 はじめに

令和7年1月8日から3月5日までの約2か月間、私は自治大学校第2部課程第207期の研修を受講しました。この研修で得た貴重な経験や気づきは、非常に価値のあるものであり、今後研修を受講される方の参考になればと思い、自身の体験を綴ります。

### 2 研修前の不安と準備

自治大学校OBの先輩職員からは「自治大の研修を打診されたら絶対に行ったほうが良い」と強く勧められていたものの、実際に2か月間職場を離れることには不安がありました。しかし、上司から「心配せず、しっかり学んでこい」と背中を押され、気持ちを切り替えて参加することができました。

私は法制集中研修を受講しない2か月間のみの参加であったため、その代わりにeラーニングやレポート提出といった事前課題があり、量も多く、決して簡単ではありませんでしたが、研修に臨むうえでの有意義な準備期間となり、研修に対する意識を高めるきっかけにもなりました。

### 3 講義での学び

研修期間中は毎日5～6コマの講義が組まれており、総合教養科目から公共政策、行政経営、地方公共団体を巡る最新の政策課題まで、内容は多岐にわたり、講師も大学教授や実務経験の豊富な専門家など非常に多

彩でした。実務に裏打ちされた講義はどれも興味深く、毎日が新たな発見の連続でした。

自分の担当業務とは異なる分野も多く含まれていたため、最初は戸惑いもありましたが、次第に理解が深まるにつれ、新たな視点が得られたと実感しました。また、講義後にはGoogleフォームによるアンケートがあり、講義内容の振り返り、自己評価を行うことで、理解を定着させる工夫が施されていたのも印象的でした。

### 4 各種演習の実践的な内容

研修の中でも特に印象深かったのが、事例演習・模擬講義演習・政策立案演習といった実践的な演習の数々です。

事例演習では、提出した事前課題をもとに編成されたグループで、自治体が直面する課題に対し、異なる地域や規模の職員同士で意見を出し合いました。普段は出会うことのない他自治体の取り組みや悩みを聞くことで、自分の考え方を見直す貴重な機会となりました。

模擬講義演習では、新規採用職員への講義を想定し、15分のプレゼンテーションを各自が作成・発表しました。発表後は研修生同士でフィードバックを行い、自身の話し方や資料の工夫、説明のわかりやすさなどについて客観的な気づきを得ることができました。普段なかなか意識することのない伝える力を磨く重要な学びの場だったと感じています。

そして、研修の中心的位置づけである政策立案演習では、5～6人のグループで、

実際に首長への提言を想定した政策の立案に取り組みました。講義で学んだ理論や手法を活かし、課題の抽出から解決策の検討、発表資料の作成に至るまで一貫して行うこの演習は、まさに実務に直結する学びでした。全員がテーマに関係する業務を担当していたわけではありませんが、役割を分担し、内部教官や外部講師の丁寧なアドバイスや指導を受けながら演習を進めました。

提言の対象となる自治体での現地調査では、関係者からさまざまなお話を伺い、それまで机上で検討していたことが、より具体的な問題として認識できるようになりました。また、他自治体の状況を学ぶ機会にもなりました。その後の中間発表会では、全員の前で発表を行い、新たな課題にも気づくことができました。本番の発表会に向けチーム一丸となってプレゼンテーションの方法や内容について何度も議論を重ね、試行錯誤を繰り返した過程は、大きな達成感を伴うものとなりました。

## 5 寮生活と人とのつながり

研修で得た知識やスキルと並び、私にとってかけがえのない財産となったのが、自治大学校での寮生活でした。

第207期は、12月の法制集中研修から始まっており、1月から途中参加する私は、すでにでき上がっているコミュニティに入ることに不安を感じていました。しかし、フロアの仲間たちは温かく迎えてくれ、初日から打ち解けることができました。

寮では、毎晩のように自身の自治体での取り組みや講義内容について意見交換をしたり、お酒を交えながら、仕事以外のプライベートな話に花を咲かせたりもしました。共に悩み、励まし合い、笑い合った時間は、まさに「大人の青春」と呼びたくなるような、濃密で温かいものでした。

平日の夜には、OBの方々おすすめの飲

食店を巡ったり、皆で新たなお店を開拓したりしながら、日常の中にもかけがえのない思い出が次々と生まれていきました。週末にはフロアの仲間と外出し、普段は行かないような場所を訪れたり、地元ではなかなか体験できないことに挑戦したりと、多くの思い出を共有しました。同じ寮で日々を共に過ごしたことが、単なる研修仲間を超えた信頼関係を築く土台となりました。

自治大学校を卒業し、退寮する時の寂しさと喪失感は非常に大きく、本当に大切な仲間たちに出会えたのだと実感しました。現在も連絡を取り合い、業務の相談や情報共有を続けています。

日々の生活を通じて、人の多様性や考え方の違い、そして何より「ともに過ごす時間の価値」を改めて実感した、かけがえのない2か月間でした。

## 6 おわりに

この2か月間の研修を通して得たものは非常に大きく、知識の習得にとどまらず、考え方や視野の広がり、人との出会いなど、さまざまな面で自分を成長させてくれる機会となりました。自治大学校という特別な環境の中で得られた経験に心から感謝しつつ、ここで培った知見や人とのつながりを糧に、今後も業務に誠実に向き合い、自治体職員として地域に貢献していきたいと考えています。